



このコーナーでは、水資源機構の環境保全の取り組みを紹介します。

関係機関と協働した 水質事故対応訓練

群馬用水は、県央地域7市町村6,300haの農地を潤し、8市町村100万人の飲み水を支える重要な施設です。しかしながら、平成20年には油の不法投棄があり、群馬用水管理所では事態の収束に全力で取り組みました。これを契機に、水質事故への備えをさらに強化し、併せて、関係機関等と合同での主に油流出による水質事故を想定した訓練を毎年行っています。

水質事故への備え

万が一、油が水路内で確認された際は、オイルフェンスを水路内に設置し、下流への油の流下を抑えて滞留させ、オイル吸着マットにて迅速かつ的確に回収することが必要となります。

群馬用水の幹線水路は約62kmの総延長があり、開水路が点在していることから、ここにオイルフェンスを設置するためのフックを整備しています。設置ポイントの7箇所には、作業時に安全帯を掛けられるよう手すりも設けています。また、オイルフェンス等の資材については、保管倉庫を複数箇所に分散して配備することで、迅速な対応を可能にしています。



水質事故対応訓練

水質事故対応訓練では、主に油流出事故時の「被害拡大防止」、「油回収」を念頭に、オイルフェンスの設置やそのためのロープワークについて訓練をします。

平成28年度は11月17日に榛名幹線広馬場第1開水路にて、利水関係機関、関係市町村、協力業者、NPO法人の約50名の参加を得て訓練を実施しました。訓練では、オイルフェンスの設置のほか群馬県の県央第一水道事務所に「浄水場における臭気チェックの方法」について説明と実演をしていただき、NPO法人自然エネルギー・環境協会に「油回収の方法等」の説明をしていただきました。

訓練を実施することで、油の流れやすさとその被害拡大を防ぐためには、初動対応の速さと適切さが重要であることを再認識するとともに、油の回収に備えた適切な資材を効果的に利用することの大切さを学ぶことができました。



おわりに

群馬用水では、水質事故の影響範囲は水道用水、農業用水と広範囲に渡ります。「安全で良質な水を安定して安くお届けする」という水資源機構の経営理念のもと、継続して水質事故対応訓練を実施し、用水の安定供給に努めてまいります。